2021年度決算及び
2022年度業績見通し 説明資料

星光PMC株式会社（東証1部 4963）
2022年2月24日

目次

✧ Ⅰ. 2021年度決算（連結）

✧ Ⅱ. 2022年度業績見通し（連結）

✧ Ⅲ. 事業別動向

✧ Appendix

Ⅰ.2021年度決算（連結）概況

決算の概況

(百万円)	2020年度	2021年度		
	実績	実績	増減	増減率
売上高	26,046	31,032	+4,986	+19.1%
営業利益	2,612	2,867	+255	+9.8%
営業利益率	10.0%	9.2%	-	-
経常利益	2,667	3,139	+472	+17.7%
経常利益率	10.2%	10.1%	-	-
当期純利益*	1,685	2,082	+397	+23.6%
減価償却費	1,188	1,292	+104	+8.8%
設備投資	2,660	2,885	+225	+8.4%
研究開発費 （対売上高比率）	1,810 (6.9%)	1,838 (5.9%)	+28	+1.5%

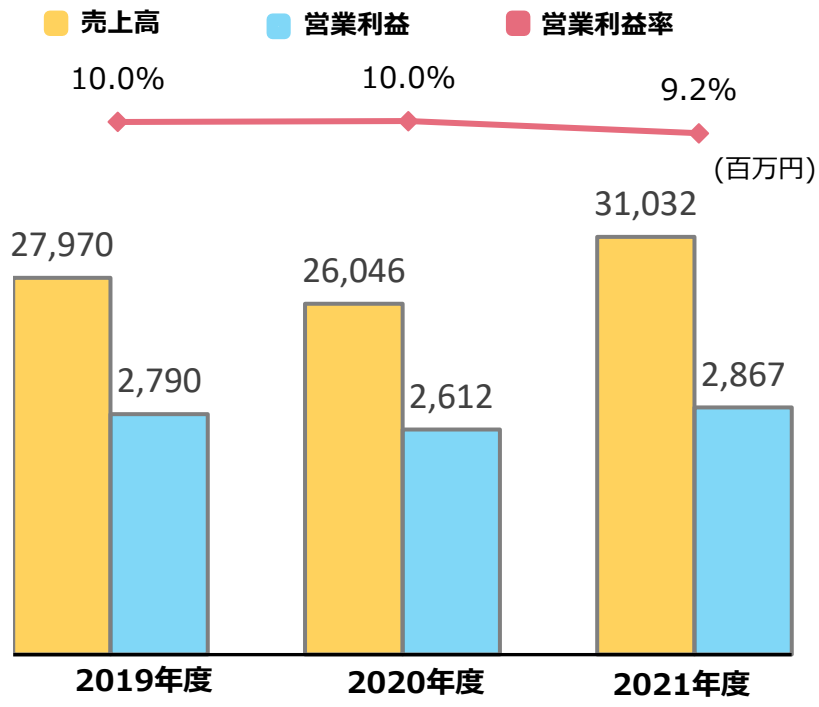
為替： 2021年平均　1ドル＝110円　（2020年平均　1ドル＝107円）
ナフサ： 2021年平均　42,800円/kL　（2020年平均　35,300円/kL）

*親会社株主に帰属する当期純利益

売上高　：国内外の需要回復と、海外を中心とした新規拡販により増収

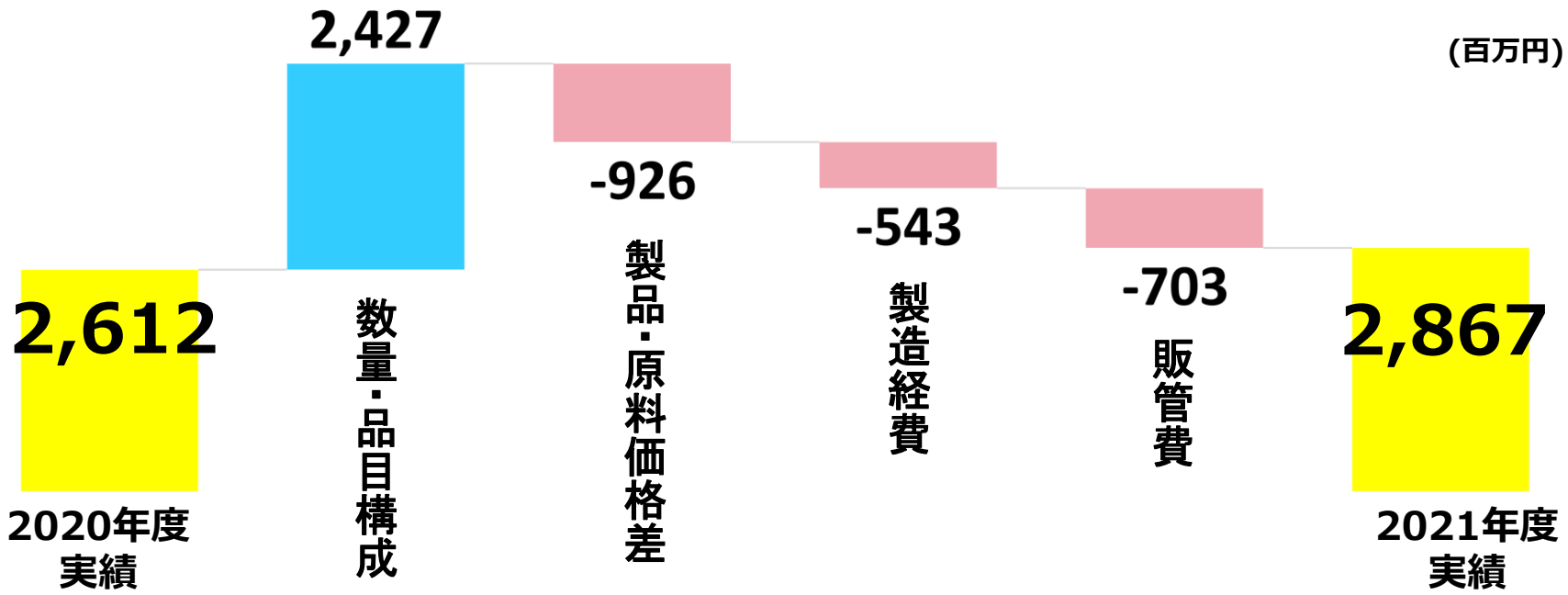
営業利益：原料価格上昇、減価償却費増も売上増で増益

売上高・各段階利益いずれも過去最高



Ⅰ.2021年度決算（連結）営業利益増減分析

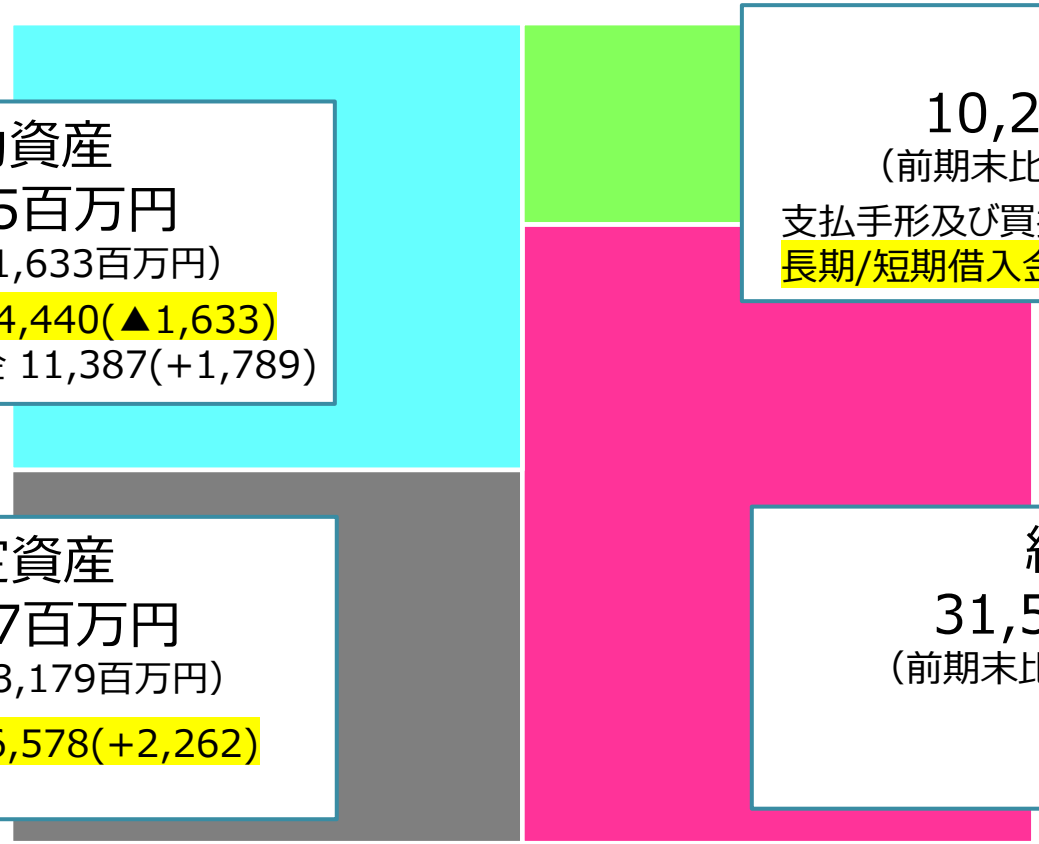
2020年度実績 → 2021年度実績
2,612百万円 → 2,867百万円 (+255百万円、+9.8%)



年央以降の原料価格高騰や、製造経費(減価償却費、ユーティリティ等)、販管費(物流コストアップ、海外展開諸費用等)の増加を、国内外の需要回復や新規拡販で吸収し増益

Ⅰ.2021年度決算（連結）連結貸借対照表

有形固定資産はベトナム及び台湾（新綜工業）の新工場建設等により、2,262百万円の増加。
実質無借金経営を継続、自己資本比率は72.4%（2020年度）から70.9%（2021年度）。



流動資産
22,815百万円
（前期末比+1,633百万円）
現金・預金、貸付金 4,440(▲1,633)
受取手形及び売掛金 11,387(+1,789)

負債
10,289百万円
（前期末比+1,671百万円）
支払手形及び買掛金 5,057(+1,091)
長期/短期借入金 1,436(+9)

固定資産
19,067百万円
（前期末比+3,179百万円）
有形固定資産 16,578(+2,262)

純資産
31,593百万円
（前期末比+3,141百万円）

総資産
41,882百万円（前期末比+4,812百万円）

Ⅰ.2021年度決算（連結）キャッシュ・フロー

（百万円）		2020年度（1-12月）	2021年度（1-12月）
営業活動によるCF	税金等調整前当期純利益	2,631	3,137
	減価償却費	1,188	1,292
	法人税等の支払額	▲598	▲636
	運転資本の増減額(▲は増加)	1,000	▲1,810
	その他	▲201	▲363
	計	**4,020**	**1,620**
投資活動によるCF	有形固定資産の取得による支出	▲2,683	▲2,864
	短期貸付金の純増減額(▲は増加)	608	1,411
	その他	▲36	10
	計	**▲2,110**	**▲1,442**
財務活動によるCF	配当金の支払額	▲500	▲611
	その他	▲79	▲83
	計	**▲580**	**▲694**
現金および現金等価物に関わる換算差額		▲7	293
現金および現金等価物の増減額		1,322	▲222
現金および現金等価物の期首残高		1,663	2,985
現金および現金等価物の期末残高		**2,985**	**2,762**

II.2022年度 通期業績見通し（連結）

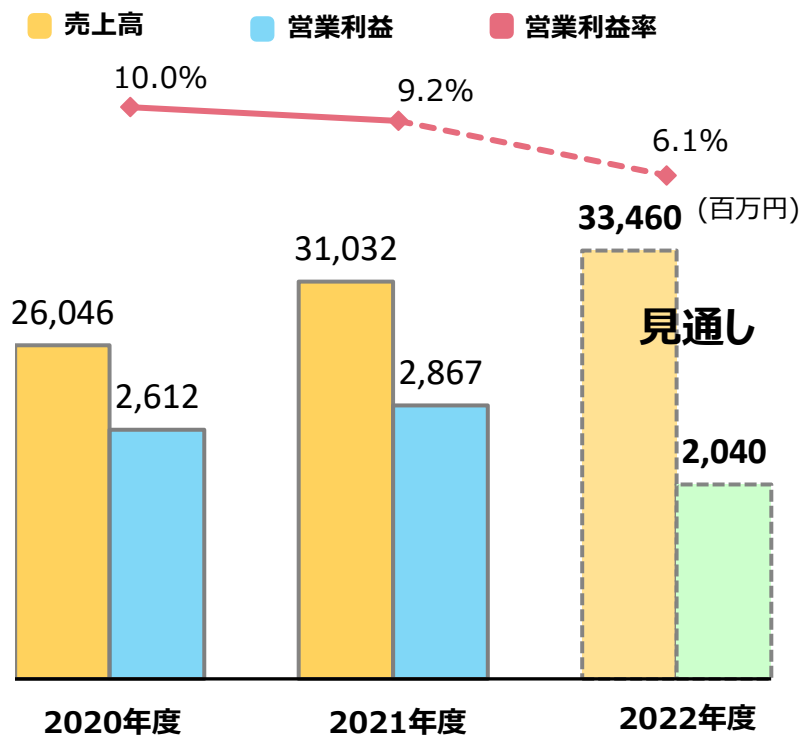
業績見通しの概況

(百万円)	2021年度	2022年度		
	実績	見通し	増減	増減率
売上高	31,032	33,460	+2,428	+7.8%
営業利益	2,867	2,040	▲827	▲28.9%
営業利益率	9.2%	6.1%	-	-
経常利益	3,139	2,160	▲979	▲31.2%
経常利益率	10.1%	6.5%	-	-
当期純利益*1	2,082	1,470	▲612	▲29.4%
EBITDA*2	4,159	3,707	▲452	▲12.2%
減価償却費	1,292	1,667	+375	+29.0%
設備投資	2,885	3,920	+1,035	+35.9%
研究開発費 （対売上高比率）	1,838 (5.9%)	1,913 (5.7%)	+75	+4.1%

為替：2022年見通し　1ドル＝114円　（2021年平均　1ドル＝110円）
ナフサ：2022年見通し　61,000円/ｋL（2021年平均　42,800円/kL）

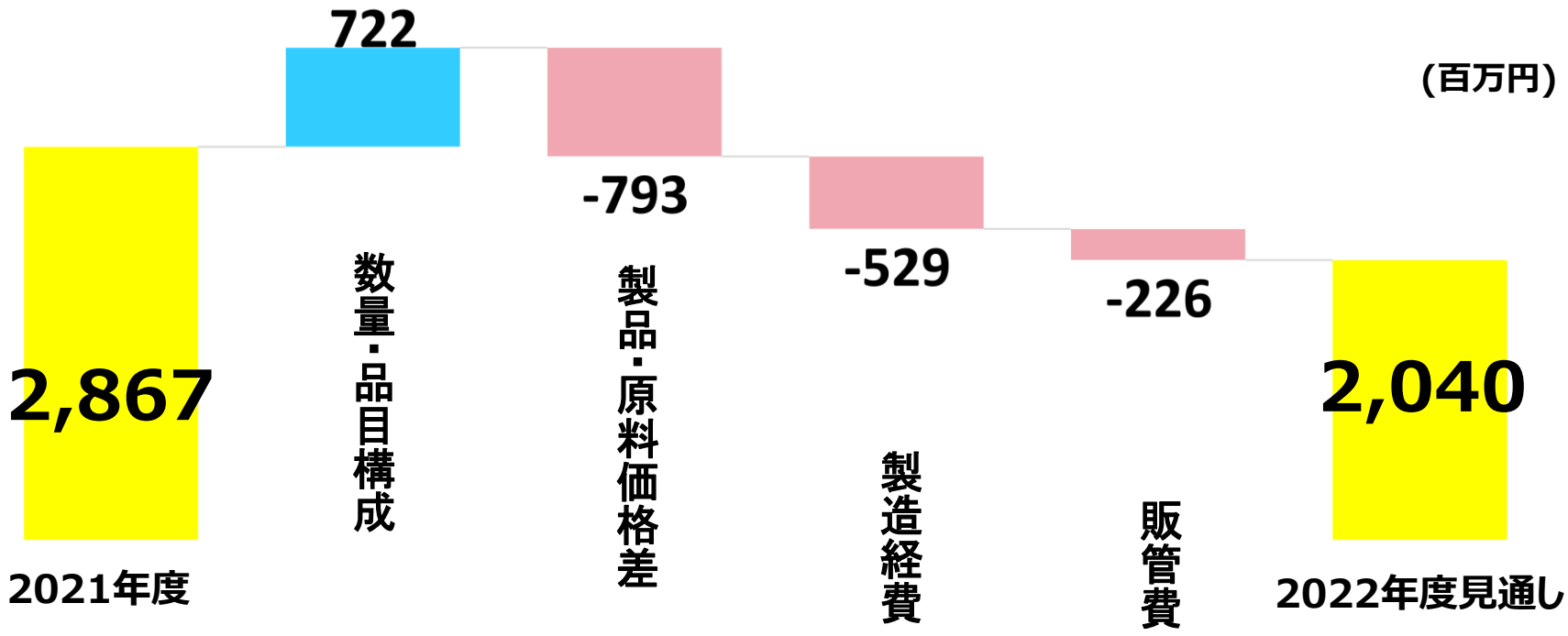
*1：親会社株主に帰属する当期純利益
*2：EBITDA ＝ 営業利益 ＋ 減価償却費

売上高　：国内外における拡販により、増収の見込み
営業利益：売上増加も、原料価格上昇と、国内外の設備増強投資による償却費増加により減益の見込み



Ⅱ.2022年度 通期業績見通し（連結） 営業利益増減分析

2021年度実績 → 2022年度見通し
2,867百万円 → 2,040百万円 (▲827百万円、▲28.9%)

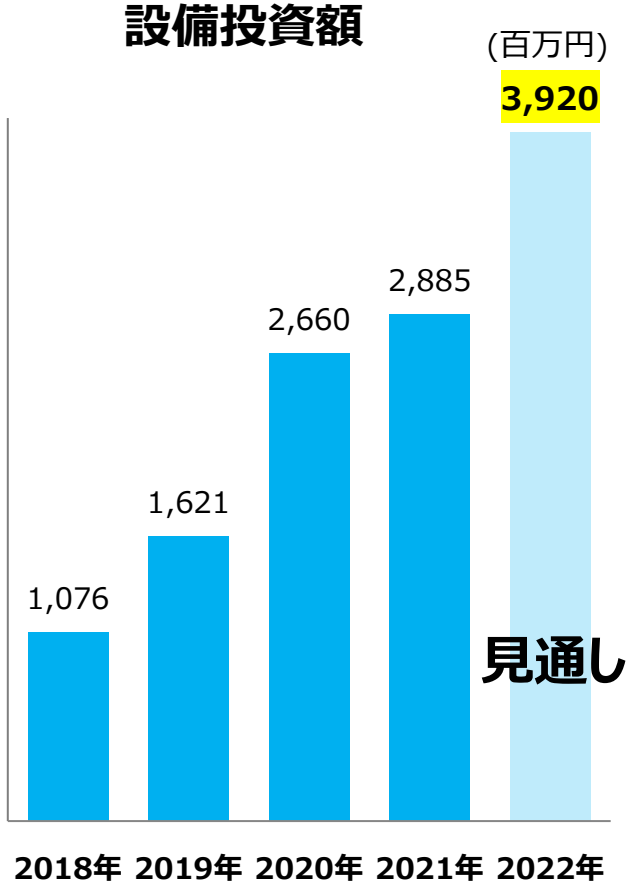


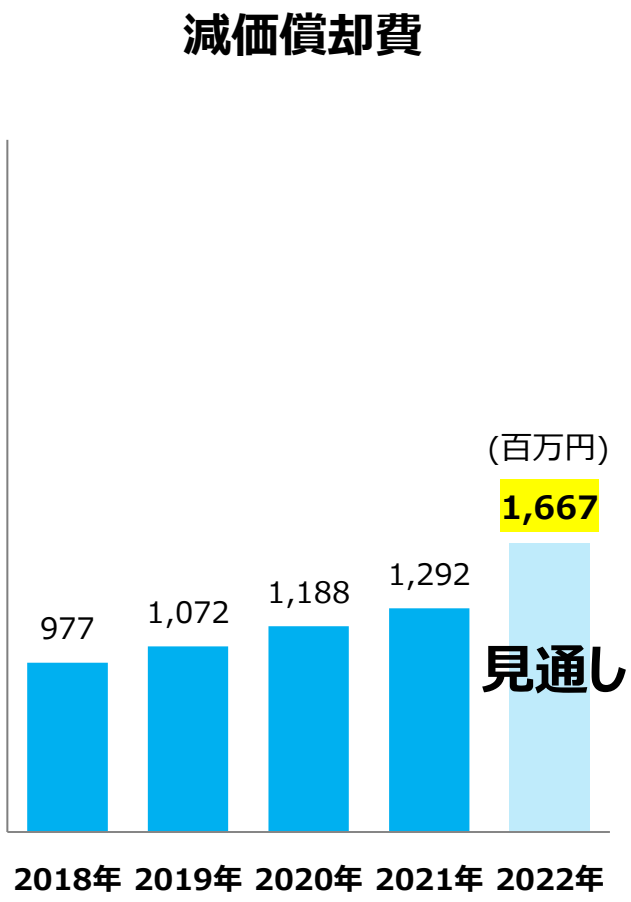
国内外で増販を見込むも、原料価格の上昇に加え、年央に予定しているベトナム工場の稼働など国内外の設備投資に伴う減価償却費の増加により減益

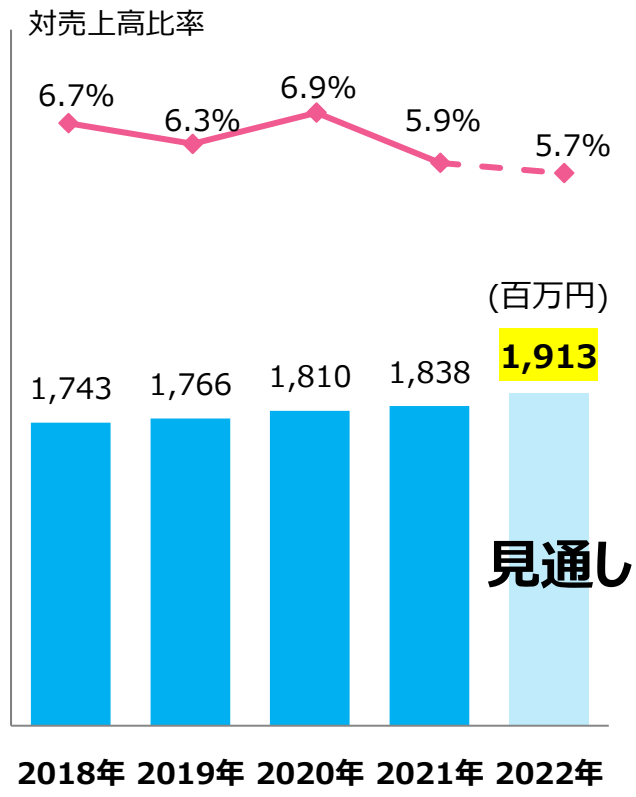
II. 設備投資及び研究開発費

2022年計画

- 設備投資額は、ベトナム工場の投資を中心に国内外で39億円強を計画
- 減価償却費として17億円弱を見込み、研究開発費は19億円強を投じる







Ⅲ.製紙用薬品事業

通期実績				
(百万円)	2020年度	2021年度	増減	増減率
売上高	15,002	17,556	+2,554	+17.0%
営業利益	1,453	1,193	▲260	▲17.9%

通期見通し		
2022年度	増減	増減率
19,452	+1,896	+10.8%
690	▲503	▲42.2%

2021年度実績

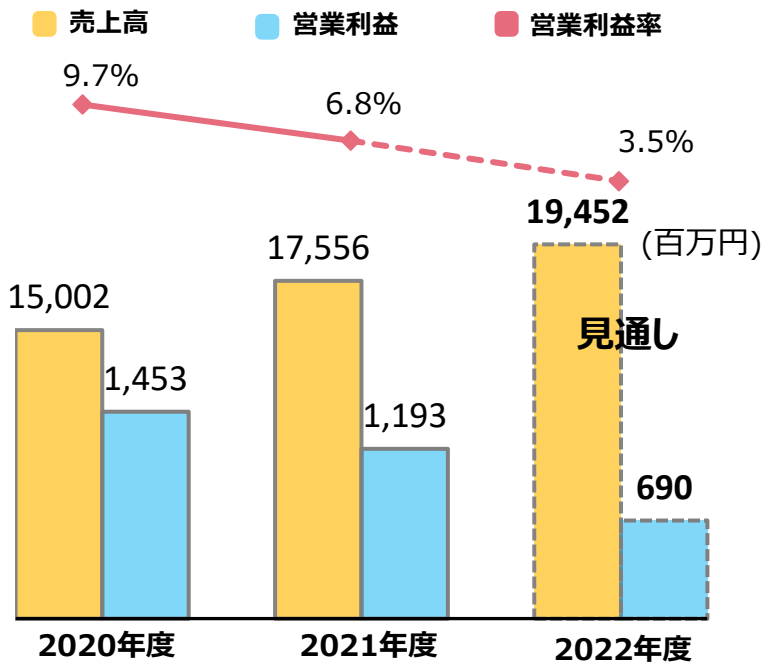
売上高　：段ボール原紙を中心とした堅調な需要、及び中国・東南アジアにおける拡販により増収

営業利益：原料価格高騰により、減益

2022年度見通し

売上高　：国内外における拡販と製品値上げにより増収を見込む

営業利益：原料価格の一段の上昇に加え、ベトナム工場をはじめとした設備投資による償却負担増により減益の見通し



Ⅲ.樹脂事業

通期実績				
(百万円)	2020年度	2021年度	増減	増減率
売上高	6,844	8,083	+1,239	+18.1%
営業利益	801	803	+2	+0.3%

通期見通し		
2022年度	増減	増減率
8,595	+512	+6.3%
941	+138	+17.2%

2021年度実績

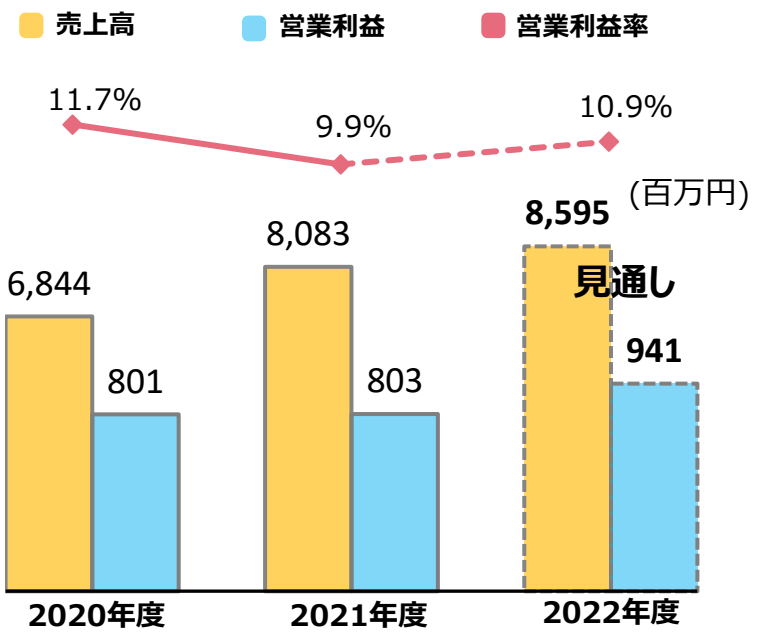
売上高　：国内はコロナ禍からの需要回復、高付加価値製品の拡販、海外は粘着剤の拡販により増収

営業利益：売上増も、原料価格高騰により前年並み

2022年度見通し

売上高　：国内外において、印刷インキの水性化及び脱プラ用途等、UV硬化型粘着剤等の環境負荷低減に貢献する製品拡販により増収の見込み

営業利益：原料価格の上昇も、上記の高付加価値製品の拡販により増益の見込み



Ⅲ.化成品事業

通期実績				
(百万円)	2020年度	2021年度	増減	増減率
売上高	4,199	5,392	+1,193	+28.4%
営業利益	716	1,312	+596	+83.2%

通期見通し		
2022年度	増減	増減率
5,413	+21	+0.4%
811	▲501	▲38.2%

2021年度実績

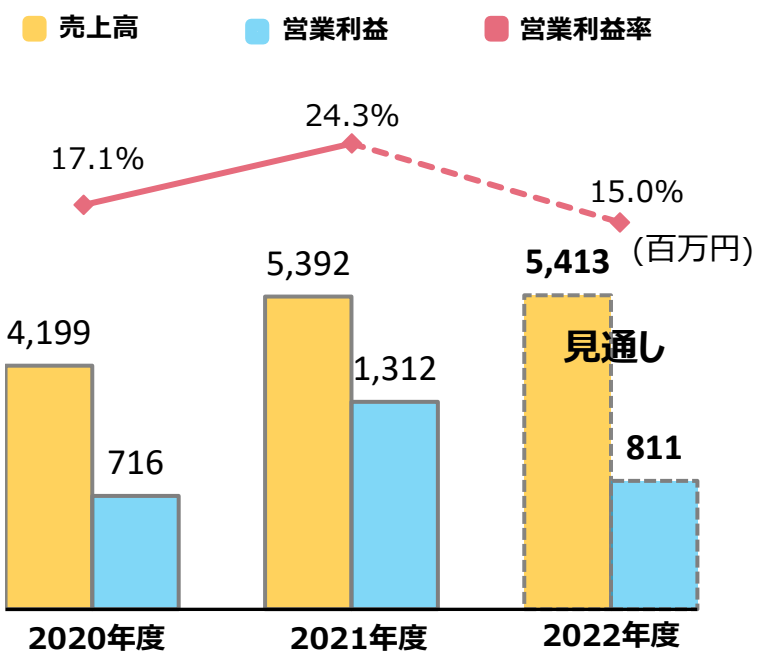
売上高　：機能性モノマーの旺盛な需要に伴う欧米・アジアへの輸出が好調により、増収

営業利益：原燃料価格高騰も売上増加により増益

2022年度見通し

売上高　：欧米・アジアの旺盛な需要も、設備改造工事に伴う稼働低下で横ばいの見込み

営業利益：原燃料価格の一段の上昇に加え、設備増強投資による償却負担増により減益の見通し



当社へのご質問等は

e-mail：ir@seikopmc.co.jp

TEL ：03-6202-7331

までお問い合わせください。

＜予想に関する注意事項＞
・本資料では情報の提供を目的としており、勧誘行為を行うものではございません。
・業績見通しは現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しでございますが、
実際の売上高および利益は、記載している予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
・当社は業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではございません。
ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
・本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負う
ものではございません。

Appendix

✧事業内容

✧当期の事業環境

✧ROE・株主還元

Appendix-Ⅰ.事業内容

➢ 製紙用薬品事業

紙力増強剤
サイズ剤
家庭紙用薬品
製紙用補助薬品

<主な用途>
紙　新聞用紙、印刷・情報用紙
　　家庭紙 他
板紙　段ボール原紙
　　紙器用紙 他

➢ 樹脂事業

各種印刷インキ用樹脂
記録材料用樹脂
粘着剤(新綜工業)
CNF(セルロースナノファイバー)

<主な用途>
フレキソ・グラビア・オフセットインキ 他
LBPプリンター用トナー 他
工業用両面テープ 他
ランニングシューズ他

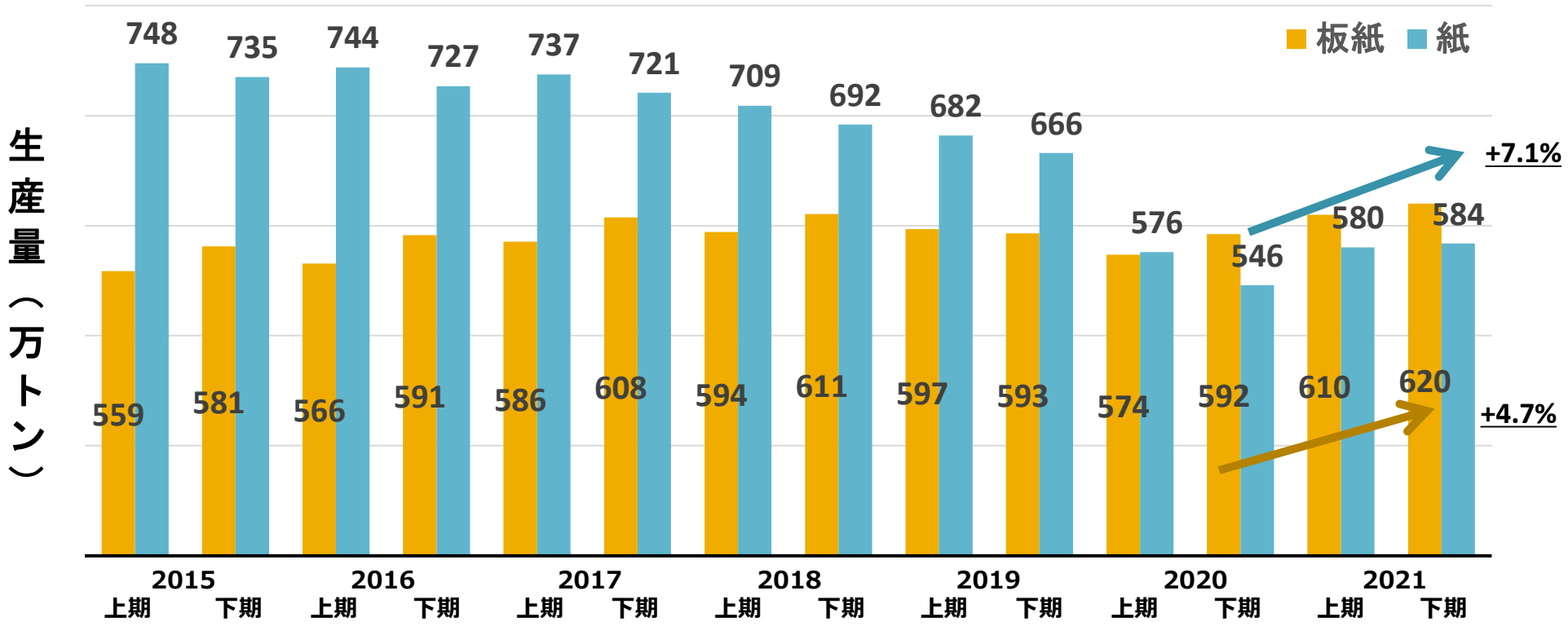
➢ 化成品事業(KJケミカルズ株式会社)

各種機能性モノマー 他

<主な用途>
UVコート剤・インキ、水系塗料、
製紙用薬品、粘・接着剤、
石油掘削用ポリマー、化粧品、電子材料 他

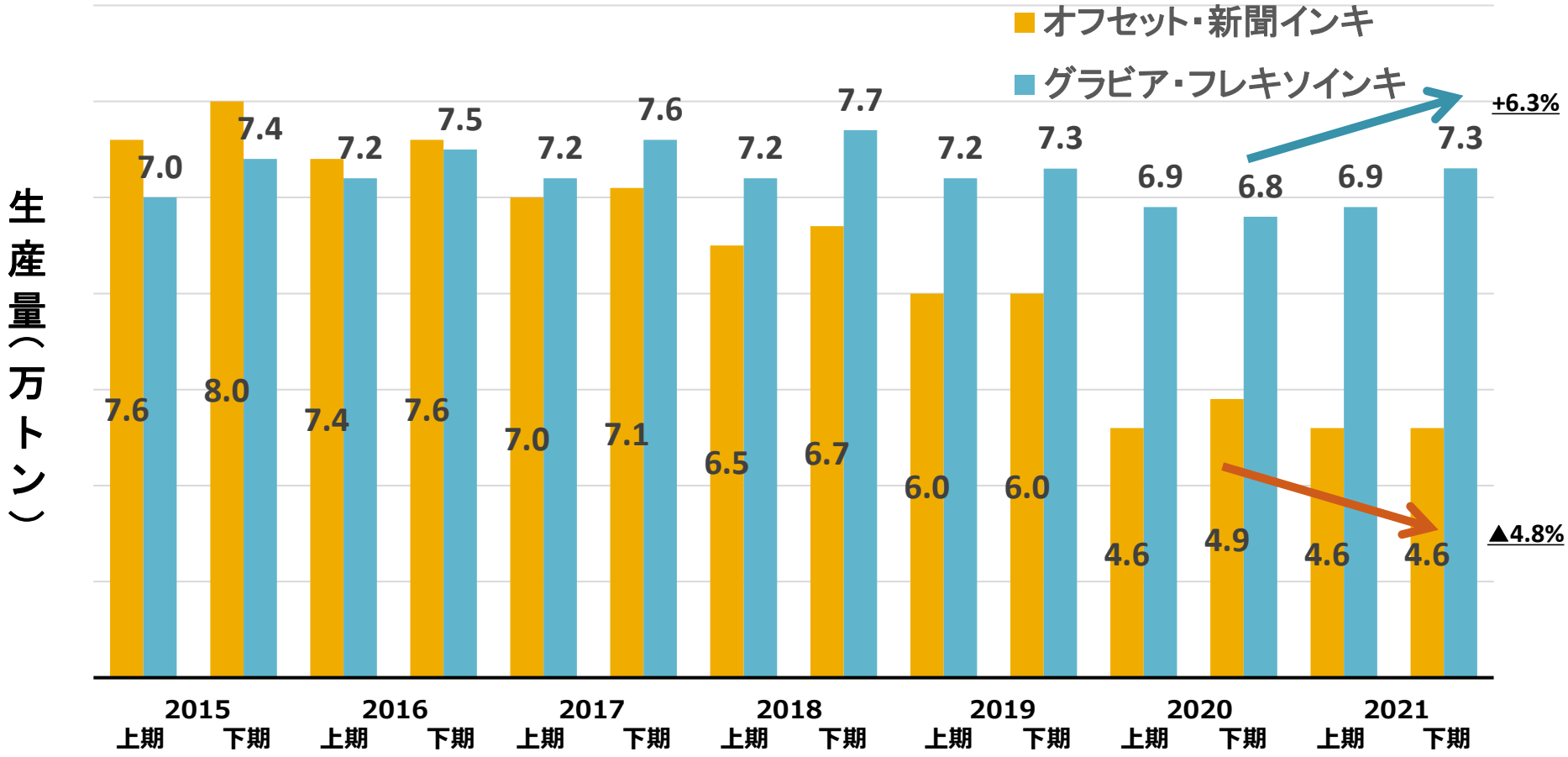
Appendix－Ⅱ.当期の事業環境（国内紙・板紙生産量）

・2021年通期の国内紙･板紙生産量は2,394万トン(前年同期比+4.7%)と回復基調。
・板紙の生産量は1,230万トンと、紙の生産量（1,164万トン）を上回り、回復を牽引している。
・特に、下期の板紙生産量は620万トン(前年同期比+4.7%）と、新型コロナウィルス流行以前を上回った。
・一方、紙の生産量は新型コロナウィルス流行以前の生産量まで回復しておらず、立ち直っていない。



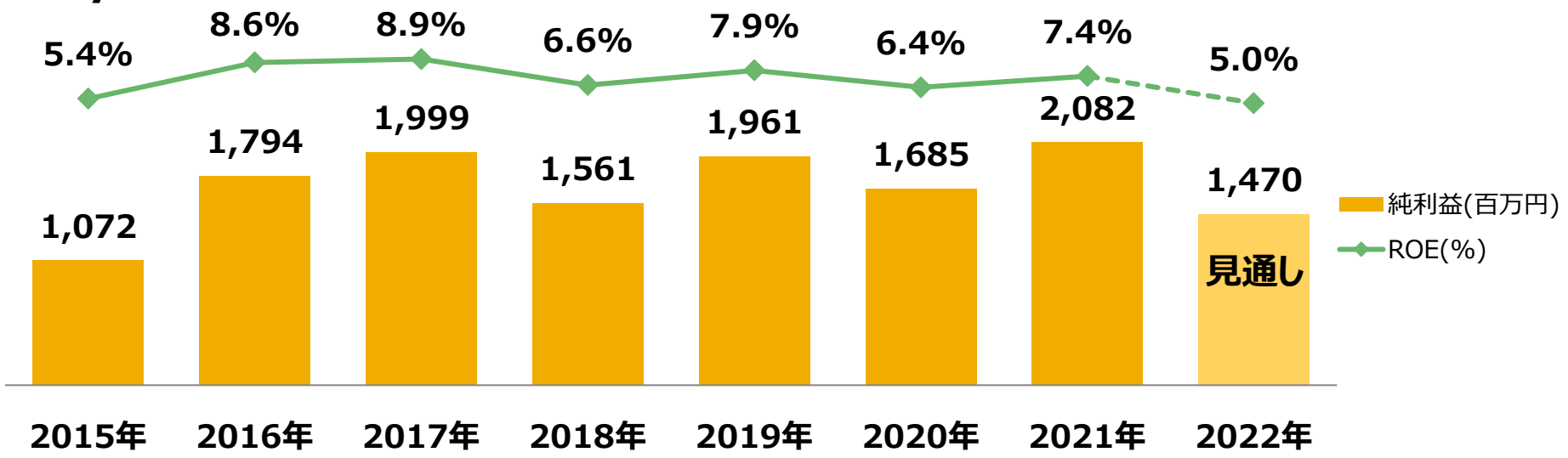
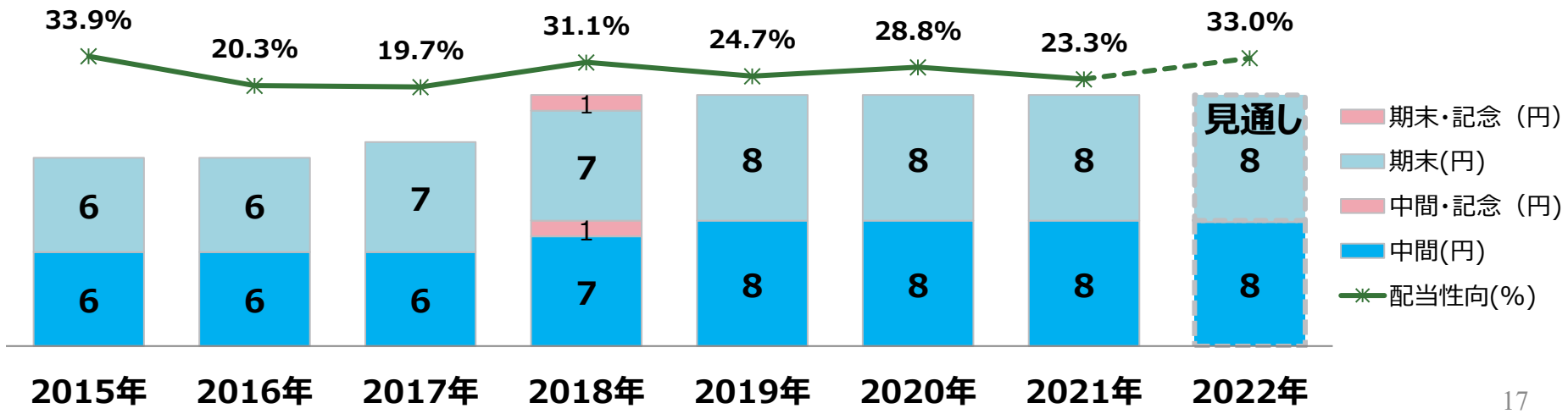
Appendix－Ⅲ.当期の事業環境（国内印刷インキ生産量）

・国内オフセット・新聞インキ生産量は、2021年通期9.2万トン(前年同期比▲2.7%)、2021年下期4.6万トン(前年同期比▲4.8%)と減少傾向が続く
・一方、グラビア・フレキソインキ生産量は、2021年通期14.2万トン（前年同期比+2.9%）、2021年下期7.3万トン(前年同期比+6.3%)と巣ごもり需要等で回復基調



Appendix-Ⅳ. 純利益・ROE・株主還元

ROE/純利益



株主還元